

帰国隊員報告

中村 希

(17-1, セントルシア, 小学校教諭, 柏市立高柳西小学校)

よろしくお願いします。私の自己紹介をさせていただきます。千葉県の高柳西小学校というところで、小学校教員をしています。派遣前は、隣の小学校の高柳小学校というところにいました。地域は柏西です。今回初めて発表ということなので、パワーポイントも初めて作ったので、この機会があって初めて、自分の活動を振り返ったという形なので、ちょっと不十分な発表かと思いますがよろしくお願いします。

帰国隊員報告ということで、17年度1次隊、中村希です。派遣国はセントルシア。職種は小学校教諭で派遣されました。最初にセントルシアのことを簡単に説明して、要請内容と実際自分がやったことということで発表していきます。セントルシアについてです。位置なんですけれども、カリブ海に浮かぶ小さな島国です。これがカリブ海なんですけれども、小さな丸がしてあると思うんですけれども、この国です。大きさなんですけれども、面積は616キロ平方メートルで、東京23区とだいたい同じくらいという小さい島です。バスで、ミニバスで一日で一周できてしまうぐらいの広さです。イギリスから1979年に独立していますので、まだ若い国です。人口は約17万人で、公用語はイギリスから独立したことで、英語になってます。現地語というのもあったんですけれども、フランス統治の時代もあったので、現地語はフランスなまりのパトワ語というのがありました。配属先なんですけれども、これも私の配属先のビルで、ここの2階に勤めてたんですけれども、首都、カストリーズという町だったのですが、首都中心部にあるディストリクト2というところなんです、小さい島なんです、全国が8校の教育部に分かれてまして、そのうちの一つのディストリクトという、一番首都中心部にあるというところでした。まったく同じ要請内容で、前任の方がいらっしゃって、私は、2代目として派遣されました。前任の方は現職ではないんですけれども、講師を経験されて、行ったという方でした。

ここのディストリクト2は、小学校が8校ありまして、中学校は4校。私立がそのうち1校ということで、公立学校は7校統括していました。これが学校の様子で、校舎と校庭。校庭っていうとちょっとおかしいんですけれども、コンクリの校庭なんかありました。先に進んじやいました。要請内容も踏まえて、町の様子なんか写真で出したんですけれども、移動はミニバスとあって、このワゴン車、これでどこにでも行きます。行き先が行き先別にいろいろあるので、どこでも乗れるんですけれども、私が、首都のタウンの近くに住んでいたんで、私が住んでいるところからいろいろなところに行けて、不便さはあまり感じませんでした。手を上げればどこでも乗れます。南の島で、観光と農業で食べている国です。生活も観光業が盛んなので、スーパ

ーマーケットとかもありまして、そんなに買い物等で不自由したことはありません。立派なスーパーマーケットなんかもあります。ガス、電気、水道も自宅にありました。ただ、停電だとか断水だとか時々あったので、水の便利さって言うのはすごく感じて帰ってきました。

では、要請内容に移ります。要請内容なんですけれども、大きく分けて3つ。体育と算数とその他ということで事前に聞いていました。細かく要請を今回また振り返ってみたんですけれども、体育の方に関しては体育の導入と普及、スポーツテストの実施、カリキュラムや指導案の作成および普及というのが3つ大きくありまして、算数の方は算数教授法の紹介や教員への助言、ワークショップの開催、年間指導計画の改訂や教材開発、学力テストの実施。あとはその他ということで、他の隊員と協力してセントルシアの教育向上に関わる各種活動ということになっていました。事前にこれを受けて、私が想像していたのが、全く体育の授業がないんだろうと、全然行われていないので、どんなものが体育なのかっていうのを。自分が見本を見せて、先生たちがその真似をするのかなとなんとなく思っていたので、例えば準備運動をしてボールゲームを一つするとかラジオ体操を教えてみたりとかそういうことを想像はしていました。算数の方は内容が難しく、先生たちの助言をするということなので、いったいどんな助言ができるのだろうとちょっと不安はありました。その他の方で他の隊員と協力してっていうのがあるんですけれども、セントルシア小さい島なんですけれども、教育隊員が結構派遣されていまして前任もいましたし、他のディストリクト、8つのディストリクトに私が行ったときには、だいたい各ディストリクト一人ずついたので8人の教育隊員がそのときはいました。ただ年度が違っているので少しずつズレがあって、減ったり、私が行った時が一番多くて、各ディストリクトに一人ずついるっていうふうに配分されていました。具体的にはそうやって、体育はそのようにすればいいなって思ってたんですけれども、他の事に関してはやっぱり具体的な想像はあんまりできないで、実際には任国に行ったっていう感じです。

実際に行ってみて、訓練が終わって、何をしようかなって思ったときに、やっぱり向こうの小学校の現状、前任の方からも少しお話は伺っていましたし、16年度の別の地域に派遣されている方からも JICA の事務所なんかで話を聞くことはできたんですけれども、やっぱり実際に行ってみて、全然わからない状況だったので、まず最初には学校巡回、授業観察ということをしました。配属先が一つの小学校ではなかったんで、いったいどんな事が行われているかっていうことも知りたかったですし、ディストリクト、オフィスの方では、一応行って、説明、面談みたいのが少し一回はあるのかと思ったんですけれども、実際は何もなくて、「よく来たね」みたいな挨拶等があっただけで、具体的に「あなたにこんなことをしてほしいのよ」っていう風な話は全くありませんでした。学校巡回始めるときも一番最初にオフィサーといって、私一応カウンターパートという人が日本で言う教育長さんみたいにあたると思うんですけれども、そういう方が一応いらっしやっただけなんですけれども、その方からも挨拶は

あったんですけども、その要請に関して仕事に関してって言うのは何もなかったもので、今度学校行くときにつれていくからねっていうような話をされて待ってたんですけども、なかなかこないの、学校に行きますと言ったら行ってこいっていう風に言われて学校巡回を始めました。一応校長先生のほうに挨拶するときも、体育と算数を見ていてくださいということで、こういう要請内容なので、それを見たいですっていうことを言って学校を周ることにしました。

もう一つは、先ほどもいったんですけども、狭い国なんですけど、教育隊員が何人もいまして16年度、15年度等もいたので、その方からお話を聞くっていう機会も、これ部会というのもありまして、算数部会、体育部会と環境部会っていうのがすでにセントルシアのJICAのメンバーの中でできていたので、そこの活動で、一応すぐ参加というか、部会は自由意志なんですけれども、そこでお話が聞けるということで部会の参加っていうのはすぐにしました。学校を見た様子で、授業風景なんですけれども。右側は普通に授業を行っているところですね。算数の授業をみている間にいろんな授業を見たんですけども、私、語学力がやっぱり低かったの、いろんな授業を見ててすごくわかりにくくて先生がどこまで説明をしているのかっていうのがなかなか聞ききれなかったというのが実態なんですけれども、算数の板書なんかを見て、ああこんなことを言ってるんだとか、こういう教え方なんだなっていうのはわかりました。一番最初に言ったこと、全校朝会で発表した写真なんですけれども、全体の様子を見ていて、算数の授業もわりと普通に想像していたよりも、日本と同じように教えているし、先生方も教材を工夫したり、例えば自分で時計をダンボールを使って、針をつかって、作ってみたりとか、掲示物なんかも自分で作ってる。これはもう先生や学校によるんですけども、そういう先生もいて、自分が先生たちに助言するっていうのがすごく難しいなっていうのを感じました。

紹介なんかも行われていて、体育の授業も実はここで行われていることがわかりました。ここに写っているの体育の先生なんですけれども、この先生は担任を持たずに体育専科で職務をしている先生でした。体育専科の先生というのが配置されていて、前任の方から聞いていたんですけども私が行く前の年は、8校で2人の先生が体育専科をしていたらしいんですけども、私が行ったときには8校に5人。私立はちょっとのぞかれてしまうので、7校で5人。2人の先生は2つの学校を掛け持ちということで、各校に体育の先生が1人ずついるという状態がわかりました。で、授業のほうも日課の方に含まれてまして、週一回程度の授業が一応行われていました。ただ、それまでがどうだったかって言うのはよくわからないんですけども、**physical Education**としての扱いというのがわりとゲーム的なところがあって、ゲームっていう風な表現をしている学校だとか先生方もいたので、体育の先生方はもちろん認識しているんですけども、担任の先生の中には、ゲームの時間という風に思っている先生もいたようです。

そのほかにもスポーツ大会の実施と言って、運動会ではないんですけれども、陸上大会のようなものとか、サッカー大会、あとネットボールって言うスポーツの大会が学期ごとに行われていて、それも現地の先生方が企画、運営していたので、想像が体育の導入と普及ということだったので、随分感じが違っているなというのを感じました。

算数のほうなんですけれども、算数は毎日1回、多いとき2回行われていました。もちろん一斉授業がすごく多くて定義の暗唱だとかそういうことをさせる時間は、長い感じはしましたけれども、授業の形態としては日本の授業の仕方とさほど変わりはないんです。ただ問題点を挙げるとすれば、練習問題が少ないという日本との違いというか、練習問題が圧倒的に少なく、定着っていう意味では子供たちの定着がはかりきれっていない、っていうのが現状でした。できる子はできる。できない子はすごくいっぱいいる。掛け算なんか覚えていない子は6年生とかでもいました。難しい教科書っていうのが、ここで少し感じたのは、やっぱり日本は教科書がすごく優れていて、教科書を前からやっていくと力がついていくようになっているっていう。先生方もそれをみれば参考にできるし、順番なんかは自分でそんなに気にしなくても大丈夫なんですけれども、日本の教科書はすごく難しく、教科書を前からやっても、一応理解できないだろうと思われるような教科書だったので、逆に先生方が教科書から抜粋して順序良く教えているのを見て、すごいなっていう風を感じました。

実際自分ができることを考えたときに、体育の先生方がいるっていう事がまずあったので、体育のワークショップを軸にやっとうとを考えて、ワークショップの開催をしました。いろんな種類のワークショップをやったんですけれども、一応体育の授業は行われてはいたので、どういふのを提案すればいいのかなって思ったんですけれども、先生方にもちょっと聞いては見たんですけれどもアクティビティの紹介をしてくれてというのが多かったので、縄跳びなんかがあって、そういうのを使って縄跳びを紹介したりだとか、あとは体育の授業は単発で、週1回しかないんですけれども、単発でやるんじゃなくて毎週積み重ねていくと上手になるよっていうのを縄跳びで、実際子供を使って1時間目は簡単なやつ、2時間目はちょっとスキルを上げてっていう風にやるとみんなすごく、みんなが上手くなっていくよっていうのを紹介しました。もう1個は、算数のほうなんですけれども、こちらのほうは算数部会で協力して、部会の人たちと一緒にやりました。こちらのほうでも、少ない練習問題をカバーするためにみんなでどんな、例えばフラッシュカードをやったりだとか、百マス計算をやったりだとか、写真に出てる計算カルタを紹介したりだとかしました。このときに、私たちやっぱり算数の授業についてどうしてそれが必要なのかすごく難しかったので、この真ん中に写っている人が算数のカリキュラムを試作して、算数を一番つかさどる偉い人だったんですけれども、ここにJICAのシニアボランティアの方が派遣されていたこともあって、部会とこの方と一緒にワークショップを開催するっていうことで先生方にこんなのはどうだろうかっていうことを提案してきました。

その他として、イベントの開催、ミニ運動会をやったりだとか、日本紹介みたいなことをやってみんなに楽しんでもらったりもしました。普段は毎日ワークショップっていうわけにもいかないんで、普段何していたかっていうと、学校を巡回して体育の先生と一緒に TT の形をとって体育の授業をしていました。そのときに簡単な指導案も書くようにはしていたんですけども、なかなかやっぱり毎日のことで本当はそれをきれいにまとめられればよかったなって思うんですけども、単発的になってしまったのが残念です。後は、依頼されたテスト作りっていうので、学力テストっていうのが部会の方で、全国テストを年に一回やっているんですけども、そういうことを積み重ねがあったので他の学年のテストも作ってくれという風にオフィサーから依頼されて、これ唯一お願いされた仕事なんですけれども、他の学年のテストも作って、成績を出してあげたりしました。

活動をふりかえってみて感じたことをいくつか。やっぱり短い活動期間。行く前はちょっと2年間不安だったので、短くてうれしいなって思っていたんですけども、2年目の活動を振り返ってみると1年目に比べて何がなんだかわからない。向こう側も何をしてくれるのかわからないっていう状態での活動を2年目で学校の様子が変わって、自分がこうしていこう、この中でこうやっていこうと思っているときに九月から始まって、3月まで、2学期の途中くらいで終わったって感じなんですけれども、お願いされることが増えてきたんですね。例えばさっきのスポーツイベント、学校での。行事なんかでもこれやってねっていう話があるところに帰国なんだよっていうのがすごく残念でした。できればまる2年いたかったなって思います。

教員の仕事だったので、語学はすごく重要で、私の学力では、子供の師範授業っていうんですかね、こんなのどうでしょうっていうのがなかなか難しいなっていました。体育なんかでも短い指示でって言いたいんですけど、自分がしゃべったらいっぱいしゃべらないと説明しきれないっていうのがあって、語学はやっぱり大事だなって感じました。ただ日本での経験ということで現地の先生方が経験も年齢も、もちろん貫禄も私よりも全然たっぷりの先生にこんなことを・・・ほうがいよってやっぱり言えない立場ではあるので、日本ではこういう風に教えています、こんなのはどうですかっていう提案はできたので日本の経験はすごくよかったです。日本と比べるとセントルシアはこうだよっていう風な言い方ができたのはすごくよかったです。

以上で終わりなんですけれども、自分もすごく貴重な経験をさせてもらったなって思って、ただ何を残してきたかと言われるとなかなか難しかったんですけども、ちょうど教育改革のタイミングと重なっていたので、体育の定着という意味では、ちょうどいいタイミングで私が派遣されたのでできたなって感じます。以上で発表は終わりです。